

「未来医療研究人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	長崎大学
連携大学名	長崎純心大学
事業名	つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア教育資源の統合と卒前卒後一貫教育を実現させる。 ・本事業によるプログラムにて教育を受けた、医学生・研修医・大学院生を継続的に輩出し、地域包括ケアシステムのより円滑・高度な運営に寄与すると共に、輩出された人材が新たな教育者となる。 ・地域包括ケアの専門職連携が強化されて輩出された総合診療医と、大学院の研究成果によって地域包括ケアシステムの強化を図る。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎大学に地域包括ケア教育センターを設置 ・長崎純心大学に医療・福祉連携センターを設置 ・地域包括ケア学講座、地域包括ケア学分野を設置 ・ネットワーク構築のためのメーリングリスト等を整備 ・本事業の公表および推進のためのホームページを立ち上げ ・必修科目、NICEキャンパス科目を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア教育プログラム新規受入れ: 医学生1～6年生、現代福祉学科生1～4年生530名 ・基本的診療能力育成プログラム新規受入れ: 医学生1～6年生660名 ・地域包括ケア研究医養成コース新規受入れ: 長崎大学大学院生2名 ・地域包括ケア教育SD・FD新規受入れ: 専門職20名 ・入学初年度からの医療面接・身体診察・超音波診断授業を導入 ・卒後臨床研修 地域包括ケア研修を導入 ・選択型臨床実習に地域包括ケア実習を導入 ・長崎市民病院に連携大学院を設置 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア教育プログラム受入れ: 医学生1～6年生、現代福祉学科生1～4年生650名 ・地域包括ケア共修プログラム受入れ: 長崎大学医学部医学科生、保健学科看護学専攻学生・理学療法専攻学生・作業療法専攻学生、薬学生、歯学部生、長崎純心大学介護福祉学生、社会福祉学生830名 ・基本的診療能力育成プログラム受入れ: 医学生1～6年生660名 ・総合医・家庭医コース新規受入れ: 初期研修医5名 ・地域総合医養成コース新規受入れ: 後期研修医5名 ・地域包括ケア研究医養成コース新規受入れ: 大学院生2名 ・総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー新規受入れ: 一般医師10名 ・地域包括ケア教育SD・FD新規受入れ: 専門職20名 ・必修型地域包括ケア臨床実習を導入 ・長崎大学医学部医学科・保健学科、薬学部、歯学部、長崎純心大学現代福祉学科共修を導入 ・多職種学生の交流継続のための地域包括ケア同窓会を設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア教育プログラム受入れ: 医学生1～6年生、現代福祉学科生1～4年生650名 ・地域包括ケア共修プログラム受入れ: 長崎大学医学部医学科生、保健学科看護学専攻学生・理学療法専攻学生・作業療法専攻学生、薬学生、歯学部生、長崎純心大学介護福祉学生、社会福祉学生830名 ・基本的診療能力育成プログラム受入れ: 医学生1～6年生660名 ・総合医・家庭医コース受入れ: 初期研修医5名 ・地域総合医養成コース受入れ: 後期研修医5名 ・地域包括ケア研究医養成コース受入れ: 大学院生3名 ・総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー新規受入れ: 一般医師10名 ・地域包括ケア教育SD・FD受入れ: 専門職20名 ・教育モデルチームとしての多職種連合地域包括ケア教育プロジェクトチームを編成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア教育プログラム受入れ: 医学生1～6年生、現代福祉学科生1～4年生650名 ・地域包括ケア共修プログラム受入れ: 長崎大学医学部医学科生、保健学科看護学専攻学生・理学療法専攻学生・作業療法専攻学生、薬学生、歯学部生、長崎純心大学介護福祉学生、社会福祉学生830名 ・基本的診療能力育成プログラム受入れ: 医学生1～6年生660名 ・総合医・家庭医コース受入れ: 初期研修医5名 ・地域総合医養成コース受入れ: 後期研修医5名 ・地域包括ケア研究医養成コース受入れ: 大学院生3名 ・総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー受入れ: 一般医師10名 ・地域包括ケア教育SD・FD受入れ: 専門職20名
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの課題分析のための調査 ・教育推進・アクティブラーニングのための教育環境整備 ・地域における教育資源活用のための調査 ・次年度カリキュラム再編に参画 ・本事業の周知・協力依頼のためのパンフレットを配布 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・教員国内視察 ・地域包括ケアシステムの課題分析のための研修会議を開催 ・キックオフシンポジウムを開催 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催 ・地域包括ケア教育支援サーバーを開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究記録のためのデータベースを作成 ・地域包括ケア実習導入のための次年度カリキュラムの大幅改編の参画 ・連携大学院地域包括ケア講座を開講 ・長崎大学医学部医学科・保健学科、歯学部、薬学部、長崎純心大学現代福祉学科の共修拡大のための会議を開催 ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催 ・教員海外視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告書を作成 ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催 ・教員海外視察 ・多専門職の教育志向向上および学生の地域志向向上のための地域包括ケア専門職と学生との交流会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・学生のための地域包括ケア教育ガイドブックを作成 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催 ・多専門職の教育志向および学生の地域志向向上のための地域包括ケア専門職と学生との交流会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職種のための地域包括ケア連携ガイドブックを作成 ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・「地域包括ケアにおける多職種連携のための医師の心得10か条」を策定、発行 ・長崎市と共同による一般向け「長寿社会の手引き」を編纂 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催 ・多専門職の教育志向および学生の地域志向向上のための地域包括ケア専門職と学生との交流会を開催 ・論文集・政策提言集を編纂・公開 ・多専門職の教育志向および学生の地域志向向上のための地域包括ケア専門職と学生との交流会を開催 ・最終報告書を作成

<p>アウトプット (結果、出力)</p>	<p>定量的なもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度共修科目 NICEキャンパス 15コマを設立 ・次年度医学ゼミ2講座を設立 ・次年度授業「医と社会」41コマを設立 ・地域包括ケア教育における各施設間のメーリングリストを構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア教育SD・FDコース修了者数:5名(地域包括ケア関連専門職種) ・共修科目 NICEキャンパス科目受講者数:5名 ・地域包括ケア科目(選択型臨床実習)受講者数:2名 ・医学ゼミ受講者数:10名 ・授業「医と社会」受講者数:400名 ・教育サーバー利用者数:200名 ・フォーラム・研究会 受講者数:100名 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合医養成コース修了者数:1名(後期臨床研修医) ・総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー修了者数:5名(医師) ・地域包括ケア教育SD・FDコース修了者数:5名(地域包括ケア関連専門職種) ・共修科目 NICEキャンパス科目受講者数:5名 ・地域包括ケア科目(選択型臨床実習)受講者数:2名 ・医学ゼミ受講者数:10名 ・授業「医と社会」受講者数:400名 ・教育サーバー利用者数:200名 ・フォーラム・研究会 受講者数:100名 ・中間報告書を500冊作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア共修プログラム修了者数:500名(医学科学生、保健学科看護学専攻学生・理学療法専攻学生・作業療法専攻学生、薬学生、歯学部生、介護福祉学生、社会福祉学生) ・総合医・家庭医コース修了者数:1名(初期臨床研修医) ・地域総合医養成コース修了者数:1名(後期臨床研修医) ・総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー修了者数:5名(医師) ・地域包括ケア教育SD・FDコース修了者数:10名(地域包括ケア関連専門職種) ・学生のための地域包括ケア教育ガイドブックを500冊作成 ・専門職種のための地域包括ケア教育ハンドブックを300冊作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア共修プログラム修了者数:500名(医学科学生、保健学科看護学専攻学生・理学療法専攻学生・作業療法専攻学生、薬学生、歯学部生、介護福祉学生、社会福祉学生) ・総合医・家庭医コース修了者数:1名(初期臨床研修医) ・地域総合医養成コース修了者数:1名(後期臨床研修医) ・地域包括ケア研究医養成コース修了者数:1名(博士課程) ・総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー修了者数:5名(医師) ・地域包括ケア教育SD・FDコース修了者数:10名(地域包括ケア関連専門職種) ・専門職種のための地域包括ケア連携ガイドブックを300冊作成 ・「地域包括ケアにおける多職種連携のための医師の心得10か条」を500冊策定、発行 ・長崎市と共同による一般向け「長寿社会の手引き」を500冊編集
	<p>定性的なもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの課題分析結果を公表 ・次年度からの地域包括ケア教育導入へ向けて必要な授業日数を確保 ・卒前教育の授業内容を見直し ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催し本事業の円滑な推進 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催し本事業の適切な管理・運営 ・教育サーバーを開発 ・高次臨床実習における実習先を選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究記録のためのデータベース作成 ・地域包括ケア実習導入のための次年度カリキュラム大幅改編参画 ・連携大学院地域包括ケア講座開講 ・長崎大学医学部医学科・保健学科、歯学部、薬学部、長崎純心大学現代福祉学科の共修拡大のための会議開催 ・フォーラム・研究会を開催しキャリア教育・キャリア形成支援に当たる ・集中セミナーの開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催し事業の円滑な推進 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催し事業評価 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催し本事業の適切な管理・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告書を作成 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催 ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催し事業を円滑に推進 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催し事業評価を図る ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催し本事業の適切な管理・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム・研究会を開催 ・集中セミナーを開催 ・長崎地域包括ケア教育推進委員会を開催し事業を円滑に推進 ・長崎地域包括ケア教育評価委員会を開催し事業評価を図る ・長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会を開催し本事業の適切な管理・運営 ・地域包括ケア関連医学博士号を授与

	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画に配慮し、当事業の3分の1以上を女性教員とする 次年度カリキュラム再編に参画し、必要な授業日数を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育各コース受講率: 50% 地域包括ケア教育SD・FD受講率: 20% 教育サーバー利用率: 50% フォーラム・研究会 受講者数: 100名 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育各コースの受講率: 10%増 地域包括ケア教育SD・FD受講率: 10%増 総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー修了者数: 10%増 フォーラム・研究会 受講率: 10%増 教育サーバー利用率: 10%増 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育各コース受講率: 10%増 地域包括ケア教育SD・FD受講率: 10%増 総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー受講率: 10%増 教育サーバー利用率: 10%増 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育各コース受講率: 10%増 地域包括ケア教育SD・FD受講率: 10%増 総合医・地域包括ケア生涯教育セミナー受講率: 10%増 教育サーバー利用率: 10%増
アウトカム (成果、効果)	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育資源の統合を図るため、医療・福祉・保健・介護の教育研修施設との連携を図り、在宅医療で抱える問題点を分析することができ次年度からの教育プログラムへ生かすことができる シンポジウムや各種委員会の開催により、地域包括ケア教育の重要性を発信し、円滑に運営 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育実習を通して、在宅医療における多職種連携の重要性の認識だけでなく、総合的かつ全人的な医療ができ高齢者医療ができる人材の養成 フォーラム、研究会、各種委員会において、事業報告を行い幅広く情報発信を行うことにより、事業の認知度が高まり円滑に運営 教育サーバーを学生が利用することにより、授業の予習復習だけでなく課題の提出や自主学習時間の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育実習を通して、在宅医療における多職種連携の重要性の認識だけでなく、総合的かつ全人的な医療ができ高齢者医療ができる人材の養成 フォーラム、研究会、各種委員会において、事業報告を行い幅広く情報発信を行うことにより、事業の認知度が高まり円滑に運営 教育サーバーを学生が利用することにより、授業の予習復習だけでなく課題の提出や自主学習時間の把握 中間報告書を作成することにより、今後の事業の在り方について再検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育実習を通して、在宅医療における多職種連携の重要性の認識だけでなく、総合的かつ全人的な医療ができ高齢者医療ができる人材の養成 フォーラム、研究会、各種委員会において、事業報告を行い幅広く情報発信を行うことにより、事業の認知度が高まり円滑に運営 教育サーバーを学生が利用することにより、授業の予習復習だけでなく課題の提出や自主学習時間の把握 学生のための地域包括ケア教育ガイドブックを作成し、多職種連携の重要性が認識される 専門職種のための地域包括ケア教育ハンドブックを作成し相互理解が深まる 専門職と学生との交流会を開催することにより多専門職の教育志向および学生の地域志向向上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア教育実習を通して、在宅医療における多職種連携の重要性の認識だけでなく、総合的かつ全人的な医療ができ高齢者医療ができる人材の養成 フォーラム、研究会、各種委員会において、事業報告を行い幅広く情報発信を行うことにより、事業の認知度が高まり円滑に運営 教育サーバーを学生が利用することにより、授業の予習復習だけでなく課題の提出や自主学習時間の把握 専門職と学生との交流会を開催することにより多専門職の教育志向および学生の地域志向向上 事業のまとめとして、この5年間の事業を通して培った成果を最終報告書や各種ガイドブック・手引きへ反映することによる周知

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	医療のパラダイムシフトの契機となるよう、従来の固定観念にとらわれることなく新たな発想で事業を実行すること。	医師・歯科医師・薬剤師・看護師・栄養士・行政・介護施設・リハビリ施設等多職種と連携をとりながら教育資源を統合し、医療・福祉系の共修や地域実習の中で多職種連携の重要性を学ばせる。卒前教育へも地域包括ケア教育を取り入れるため医学部教育のカリキュラムを再編統合し、長崎純心大学との医療・福祉系の共修や地域実習の中で全医学生が受けるようにする。また、医学科入学初年度より従来と異なる診療能力育成先行方を取り入れ、全人的医療・高齢者医療・チーム医療ができる新たな人材養成システムを構築し、更には、卒前・卒後一貫教育システムへと繋げる。 また、地域中核病院に連携大学院、地域包括ケア講座を開講し、地域包括ケアの研究を推進させ若手医師の研究志向を啓発する。「多職種連合地域包括ケア教育プロジェクトチーム」を編成し、教育ガイドブックなどを発行し、関連専門職種に対するSD、FDを開催し、関連専門職種の教育力向上を図り、教育コンテンツはクラウド化し、地域で共有する。
②	事業期間中のアウトプット、アウトカムを年度ごとに明確にし、達成状況の工程管理を行うこと。	事業期間中にも定期的にアウトプット、アウトカムの達成状況を確認し、進捗状況を認識することで随時工程管理を行う。さらに長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会、長崎地域包括ケア教育推進委員会において年度ごとの事業の達成状況について確認し評価する。
③	事業の実施にあたっては、一部の教員や一部の組織のみで実施するのではなく、学長・学部長等のリーダーシップのもと、全学的な実施体制で行うこと。また、事業の責任体制を明確にすること。	専任の地域包括ケア教育センター教授は随時本事業に関わる全学スタッフと連携をとりながら、本事業が円滑に遂行されるよう管理・運営する。医学部長・学長は長崎地域包括ケア教育評価委員会のメンバーとして本事業の達成状況を適宜確認し、助言する。
④	事業期間終了後も各大学において事業を継続されることを念頭に、具体的な補助期間終了後の事業継続の方針・考え方について検討すること。	事業期間終了後も、卒前・卒後一貫の教育システムによる地域包括ケア教育を継続し、多職種と連携してリーダーシップを発揮することができる総合的な診療能力を有する医師を継続的に育てる。なお、本事業により構築された地域包括ケアネットワークを有効に機能させ、大学院を拠点とした研究活動を継続する。
⑤	成果や効果は可能な限り可視化しうえで社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、導入に至る経緯や実現するためのノウハウ、留意点、ポイント等についても情報発信すること。	シンポジウムや各学会への発表等を通して、幅広く情報発信を行っていく。 また、随時ホームページへ事業報告を行っていく、年度毎に報告書を作成する。地域包括ケアに関わるガイドブックや指南書を編纂し発刊する。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
事業背景に問題点が述べられているもののその1つ1つに対する解決が図られるプログラムとなるよう期待したい。	卒前・卒後一貫教育システムを構築し、卒前は地域ケア実習を含め、医療・福祉系の共修や地域実習の中で多職種連携の重要性を学ぶ。さらに卒後臨床研修や生涯教育に繋げ、総合的診療能力やマネジメント能力の養成を図る。 また、長崎純心大学現代福祉学科と連携し、相補的な教育体制を確立し地域包括ケア教育の質を向上させる。病院と地域における教育体制の統合をめざし地域中核病院に連携大学院、地域包括ケア講座を開講し、地域包括ケアの研究を推進させ、若手医師の研究志向を啓発する。
教育プログラム・コース内容の充実を期待したい。	多職種と連携をとりながら教育資源を統合し、医療・福祉系の共修や地域実習の中で多職種連携の重要性を学ばせる。卒前教育へも地域包括ケア教育を取り入れるため医学部教育のカリキュラムを再編統合し、長崎純心大学との医療・福祉系の共修や地域実習の中で全医学生が受けるようにする。また、医学科入学初年度より従来と異なる診療能力育成先行方を取り入れ、全人的医療・高齢者医療・チーム医療ができる新たな人材養成システムを構築し長崎在宅Dr.ネットや各専門職をととして在宅医療を支える多職種の連携を学ぶ。更に、卒前・卒後一貫教育システムへと繋げる。
物品費が高額であるが、費用対効果が求められるため、物品を有効に活用できる仕組み作りに期待したい。	各種シミュレーターは、医学科入学初年度より従来と異なる診療能力育成先行方の新たな人材養成システムを取り入れるにあたり、シミュレーターを利用して低学年より実際の診療に近い授業となり診療能力を早い時期から高められる。 学生用タブレット端末は、地域医療実習においても学外の多職種の方から評価を受けられるシステムを作成し、実習前後においてタブレット端末を利用して授業の資料配布、課題の提出や予習・復習だけでなく自己経験の進捗状況把握が出来るシステムを構築する。